

歴史ある建物を未来へ伝える

研究内容

民家と町並み、寺院と神社、近代和風建築、茶室といった伝統木造建築全般のジャンルを対象とした歴史研究が専門です。

とくに、名工とうたわれた職人のモノグラフ研究、木材利用の歴史、茶室・数寄屋研究に力を入れています。

研究手法は、東北各地の歴史的建造物フィールドワーク(実測調査)が中心です。正確な実測図を制作し、その建物の由緒や意匠、材料、構造形式の学術的記録を蓄積しています。これに加えて、職人への聞き取り、古文書読解の研究手法も併用しています。歴史ある建物の価値を評価する研究を基盤としながら、地域・産学連携をはかることによって、建築の価値を伝える展示・冊子デザイン、さらに保存修復や町並みの保存修景計画、活用事業にも取り組んでいます。

地域・産学連携の可能性

自治体、まちづくり団体、建築家と連携することで、地域のニーズにこたえる実践的な調査研究を心がけています。

自治体関係では、東北各地の文化財部門を中心に連携をはかっています。文化財指定・登録のための図面制作や価値評価に加えて、建物や歴史的町並みの保存修景計画策定などに関する連携もあります。

歴史的建造物の保存修復については、地域の建築家と共同で調査研究に取り組むことによって、学術的な価値評価が、実践的な保存修復設計へ結びつくよう心がけています。

さらに、活用という視点では現在、文化財的価値のアピールだけでなく、まちづくりや観光、健康など広範囲な効果が求められています。地域まちづくり団体や異分野との連携を広げ、歴史ある建物の多様な活用の意義を考えていきたいと思っています。



実測調査



伝統技法による修復



歴史的町並みの活用事業

このテーマに関連する東北SDGs研究実践拠点 **地域・地場産業振興研究拠点**

このテーマに関連するプロジェクト研究所 **生業景デザイン研究所**

このテーマに関連するSDGs開発目標



建築学部 建築学科 日本建築史

中村 琢巳 NAKAMURA Takumi

准教授、博士(工学)

URL <https://www.takumi-lab.com>

執筆論文

中村琢巳「歴代木村清兵衛にみる数寄屋大工の近代」家具道具室内史学会誌 8号, 2016

